
チートな俺とD×D

月影ミケ乱

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チートな俺とDxD

【Nコード】

N5112BA

【作者名】

月影ミケ乱

【あらすじ】

事故で死んで神と魔王にハイスクールDxDへと送られる、主人公「兵藤一誠」になって大奮闘！
チート能力と赤龍帝を引っさげて大暴れ、どこまでいけるかこうご期待！

作者がアニメみて暴走的に書き出したものです、基本小説と漫画をベースにしています。

Life・00:プロローグ(前書き)

すみません、月影ミケ乱です

いや〜暴走して書いてしまいました

んじゃ〜ストーリーへ

Life・00：プロローグ

知らない天井だ・・・

なんとテンプレな台詞を言ってしまった俺だがかなり混乱してる、
なぜなら、さっきまで屋上から落ちたからだ、
簡単にまとめるといじめ野郎を社会的致命症を与えてやったら、
仕返しにリンチにされそうになった所で金網がはずれそのまま落ち
たのだ、

(＊詳しくはチートな俺と異世界物語で)

そして死んだはずの俺がどうして何も無い真っ白な部屋にいるんだ？

「ふむ、こいつならいいかな？」

「そやな、こいつでええな」

後ろでなんか話してる人がいるらしいから振り向いてみると、
そこには人(？)がいたのだ、俺をみて相談中みたいなのだ、
人とはちよつと違うまるで二人は正反対な気を放ってる、
ぶつちやけて言えば神と悪魔って感じがビンビンなのだ、
顔も光つてたり暗かったりとまったく見えん、

「あゝ君は死んだことわかってるよね？」

神(？)らしきじいさんが聞いてくる、

俺も死んだはずなのにここにいてるって事はいきてるのか？

「理解してるみたいやな」

なんと心を読みやがったよこの悪魔（？）

「うむ、ところで私たちは今君が思ってるそのままだよ」

「訂正では神と魔王やけどな」

やっぱりか、でそんなお二人さんがなんの要なんだ？

「ある世界にとんでほしんよ、実際」

「君が生前読んでいた本やアニメ、漫画と言った世界なんだが、私たちはもう干渉が出来なくなっているのだ」

「その神がその世界の可能性を見ていたら、大変なことがおき
な、

その世界の主人公が死ぬって言う世界が出来てしまつてな」

「私たちが出来る事といえば魂なら送って主人公に固定するくらい
しかできないのだよ」

「そんで丁度お前が死んだからこの魂を使おうと思つたんや」

「なんとまゝかなりテンプレですね、送るだけですか？」

「それやけど一応向こうで死ぬからそのときに発動するようにする
ぞ」

「つてもう一回しぬんかい！」

「そうだね、君は『ハイスクールD×D』って知っているかな？」

うむ、あの有名な小説だな、俺は好きで10巻全部もってるぞ、

「その世界の主人公『兵藤一誠』ひょうとういつせいになってもらおうってことや」

なんと、あの主人公にか！？

なるほど、それなら一度死んで悪魔になる必要があるな、でも少し不安だな、どうしたものか・・・

「そんな不安な顔せんでもいいぞ、なんせ特典は付きやからな」

「そうですね〜7個にしますか、ラッキーな感じでいいのでは？」

「そやな、それでいい」

そうなると何個か考えてあったのをまとめるか、いきなり頭をフルに回転させる、

それはもうなんていうか今まで勉強以外にフルに使うのは初めてかもしれない、

「おしつ！まず『努力すれば出来るようになる能力』、

『魔力、気、霊力、念、覇気をリミッター解除で使えるようにして』

『Fateの「王の財宝」ゲイト・オブ・バビロンと「無限の剣製」アンリミテッドブレードワークスをえるように』、

『ネギま！のダイオラ魔法球、1時間を一週間にと年をとらないようにして』、

『身体精神知力のリミッター解除と耐久性向上を』

『魔眼On/off付きで代償無しに』

最後に『続きとか気になるからそれらの本やアニメを「王の財宝」ゲイト・オブ・バビロンに入れてくれ』

「ふむ、それくらいならいいですよ」

「なかなか良い線を描くようにつけたもんや」

「そうですね、あゝ殆どのあなたが知りたい物はダイオラマ魔法球の中の書物庫に入れておきます」

「別名『無限書庫』やな、あと1と2と4と5は最初っから使えるようにしておくで」

「ありがとうございます」

「それでは今から送りますから」

「気張りや〜」

二人が俺に手をかざすと俺が光だす、自分の原型がなくなり球体になった、

意思はあるが前の俺の原型がなくなったのだ、言ってみれば魂だけの存在だ

そして目の前でいきなり暗転したのだった、

二人視点Side

送るのを見た二人はすこし安堵したようたため息をして、

「よかつたんか？あいつ・・・になれる逸材やんけ」

「いいのです、それには経験が必要だと思いますから」

「せやな、さてワイらもいこうか？」

「そうですね、私たちも母なる闇へともどりますか」

「多分説教がまってるやろな」

「はい、素直に受けましょ」

「ワイはいやなんだがな」

そういうと二人は闇へと姿を消していった。

Side out

つづく

l i f e ・ 0 0 : プ ロ ロ ー グ (後 書 き)

次 回 : l i f e ・ 0 1 : 俺 は 兵 藤 一 誠 !

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5112ba/>

チートな俺とD×D

2012年1月14日02時19分発行